

道

人と道

禽獣は道を造らず、人は道を造って歩む。人と禽獣との異なるゆえんである。足すでに道を歩む。その生活もまた道を行ぜねばならない。人の中の人、これを聖者と称え、賢人と尊び、大聖と讃える。しかして、仏も聖者も賢人も、道を離れては存在しない。

人は、禽獣の持たない智能を持つ。もし道を行ぜずば、智能あるが故に、かえって禽獣に劣る。

動物は乱淫せず、貪欲ならず、妄りに殺さず、悲観して自殺しない。故に、人もし道を失はば、禽獣に劣る。ただ人は道を修むるが故に人たるを得るのである。

人とは即ち道、道とは即ち人たるゆえんである。されば汝の一生をして、求道精進不退ならしめよ。

法と道

我等が知るに先だつて、天地の間に「法」が厳存する。

法を体得するものは智慧である。信心とは智慧であり、念仏もまた智慧である。

法に反逆して、我執我慢を通さんとし、小我の欲望に立てこもつて、法を無視するを罪悪と言う。

故に罪悪は無智より生れる。無智なるものは道義を知らず。法を離れて大道の自覚はないからである。

法を聞き、法を信じ、法を生活する、これを大道と言う。

法は即ち道である。されば汝の一生をして、聞法精進不退ならしめよ。

法と教

教とは即ち法を習ふことであるが故に、教は即ち教である。法をはなれて教はない。

教育は、ただ人間の間のみあり、その教育によって法を知る。

されば、教えをはなれて大道あることなく、仏も菩薩も人も道も聖賢も、全て教の中より生れる。

されば、道に生きんとする者よ、教えの前に忠実であれ。

眞実の人も、眞実の生活も、道も、ただ法にたいする絶対帰依によってのみ成就する。

「唯然り、我無上正覚の心を襲せり。願はくば仏、我がために広く経法を宣べたまへ。」

成仏の願に立ち上つて、師仏の前に合掌し、法を聞かんとする態度において法蔵菩薩魂はあり得ない。されば教主善知識の前に合掌して、その教に絶対信順せよ。白道はただ師の教えによって生る。

道と徳

道と徳、一緒に言へば、道徳である。

法を聞き、法を信じ、法を行じて、身も心も法になりきる時、徳と言う。故に徳もまた徳のりである。

されば、汝の生涯をつくして、法を生きて、徳を汝の上に成就せよ。

不惜身命

汝の上にこの厳肅なる批判を下せ。非難怖るべからず。攻撃恐るべからず。

困苦を避くべからず。享樂に溺るべからず。貧困も厭ふべからず。

唯、汝の怠惰おそるべし。汝の弱さを怖るべし。

道のためには、身命すら惜むべからず。まして金錢をや。

祖国の柱

見よ、日本の上層、虚偽と無道義に躍る。その時、誰か祖国日本を救い、道義の国日本を建設するものぞ。されど見よ。万古にかわらぬ富士の秀麗を、大和櫻の花の色を。

日本を救うものは日本の血潮、その血潮が日本の底を貫流して、忠勇となり、孝となり、力となり、徳となり、道となる。ああ、無名の国柱、祖国を救う。

道の人のみ、祖国日本の国柱である。

よろこび

欲望、享樂中心の生活は、徹底すればするほど、世を汚し、他人に迷惑をかけ、自分の上には、ただ淋しさと、つまらなさと、飽きだけが残る。人生の本質にふれた歓びはあり得ない。

人生の本質について考えることを教えられず、正しい宗教を失い、欲望をこえての本願に生きること知らない現代人は、人生の帰結を、ただ享樂にありとなして、ついに金と、時間と、学問とを持つほどあさましい相を白日の下に曝露してしまった。

かゝる世相の中に立つて、あくまで人生の真相は道にありと信じ、法を求め、道を求めて生きぬかんとするもの、即ち我等の世界である。

人生真実のよろこびは、ただ永遠の大道に生きるもののみ許される。南無阿弥陀仏。